

2月13日(日)和水町多目的
広場で第34回戦国肥後国衆まつり
つりが開催されました。

晴天に恵まれた今年の祭りは、和仁五人衆による「エイ！エイ！オー！」の掛け声で幕を開けました。

祭り最大の目玉「武者行列と一揆の再現」では、町内外から駆けつけた総勢67人の武者たちが、緊迫した空気なか、鉄砲隊や大砲の爆音を合図に、戦国絵巻さながらの壮絶な戦いを再現しました。他にも、特別出演の葦北鉄砲隊による迫力満点の実演や、町青年団による肥後にわかなどのイベントがあり、多くの来場者で賑わいました。

第三十四回

戦国肥後国衆まつり

～武者の意地ここにあり～



町青年団 肥後にわか



子ども修羅レース

戦国肥後国衆一揆

『田中城の戦い』とは

天正15年(1587年)豊臣秀吉の九州平定により肥後の領主となった佐々成政。佐々成政が行った検地などの強引な政策に抵抗して肥後各地の国衆たちが起こした一揆が「肥後国衆一揆」である。

これに激怒した秀吉が、九州支配の今後の見せしめとして、筑前・筑後の大名に命じて攻撃をかけ、肥後各地の国衆を滅ぼしていくなか、和仁氏は迎春氏とともに、田中城に籠城して抗戦した。小早川秀包を総大将とする安国寺、立花、鍋島などの1万の大群に対し、1千あまりの軍勢で最後まで激しく抵抗したが、約40日後、最後の一兵までも滅ぼされてしまった。

秀吉はこの一揆後、全国に『刀狩令』を發布したといわれている。

これが今もなお日本歴史上大きく位置づけられている『田中城の戦い』である。

特別出演 葦北鉄砲隊



※国衆

戦国時代、各地の守護大名は幕府の政治のため、京都にすることが多く、領国の支配は守護代に任せておいたため、在地の守護代や土豪は次第に力を伸ばし、各地で中小の土豪が自領を拡大、自衛していった武士集団のことである。和仁氏は肥後五十二人衆の一人だった。



先陣修羅レース